

学校の仲間と学びの意味を語り合う 「高校生未来プロジェクト」で 学びの意欲はどう変化したか

4校で実施された「高校生未来プロジェクト」のワークショップでは、生徒の学びの意欲にどのような変化が現れたのか。2校の生徒に聞いた。

ケース1

埼玉県立大宮光陵高校



「自分の意見に反論されたことは、新鮮で面白い体験でした」
新間貴彬さん
「知識の大切さに気が付き、人と話すことが楽になりました」
河野帆夏さん

ワークショップに参加した理由

河野 先生から「ワークショップは、自分のことや社会のことについて、

いろいろな人に伝えたり、相手から聞き出したりする力を鍛えることの出来るチャンスだ。大学でも社会でもそうした力が必要だから、参加した方がよい」と勧められました。

ただ、私は人と話すのが得意ではなかったのですが、自分のことをちゃんと伝えられるかどうかが心配でした。

新間 ワークショップでは、社会人や先生、友達といろいろなテーマで語り合うと聞いて興味を持ちました。いろいろな人と話す中で、高校生活で大切にすべきものが見つかるかも……といった期待もありましたし、日本の現状やこれからについてみんなで考えてみたいという気持ちもありました。

河野 実際のワークショップは、イメージしていたものとは違いました。私が想像していたのは、「上手



埼玉県立大宮光陵高校 2年生
河野帆夏
こうの・ほのか
普通科外国語コースに在籍。旅行業など知識を生かしたサービス業に関心がある。好きな教科は国語。



埼玉県立大宮光陵高校 2年生
新間貴彬
しんま・たかあき
普通科外国語コースに在籍。将来の夢は、英語を使う職業に就くこと。好きな教科は英語。

に話せるコツ」を教えてください、プレゼンテーションの練習をしたりするものでした。ところが、ワークショップでは、緩やかにテーマは決められているものの、自由に周りの人と話すだけで、上手に話すための



大宮光陵高校では、全学年から参加希望者が募られ、約30人が参加。全4回（各回4時間）で実施した。

コツなど誰も教えてくれませんでした。それでも、ワークショップの後には達成感を持つことが出来たので、続けて参加することになりました。

ワークショップで 印象に残っているもの

新聞 3回目のワークショップで、先生を交えた4人グループで「英語学習」について話していた時のことです。「日本人も小さい頃から英語を習うべきだ」と僕が言ったら、先

生に反論されたのです。ちょっとびっくりはしましたが、僕がさらに反論すると、先生は「なるほど。そういう考えもあるね」と納得してくれました。この時が印象に残っているのは、反論されたことで、「そんな考え方をしているのか」という新鮮な驚きと議論することの面白さの実感があったからだと思います。

河野 友達と社会問題について話し合うのは初めての体験でしたが、いろいろな考えがあることを実感できて楽しかったです。また、「学ぶとは、どういうことか」というテーマの小論文を書いたのですが、私は「学ぶとは、理解すること」と書きました。グループのメンバーで小論文の回し読みをした時に、「確かにそうだね」とみんなに言ってもらえたのがうれしかったです。ワークショップに参加する前なら、「学ぶとは、学校で勉強すること」としか答えられなかったと思います。当たり前のことを深く考えることは、普段の生活の中ではあまりないことですし、別に

深く考えなくても特に困ることはなかったけれど、みんなで話し合ってみたら意外と楽しいことに気が付きました。

ワークショップを経て 何が変わったか

河野 今まで家でポーツとしていた時間にニュースを見るようになりました。社会問題についてみんなよく知っていましたし、知らないと恥ずかしいと思うようになったからです。そして、人と言葉のキャッチボールが出来るようになった気がします。私は、授業で先生の質問などに答える時にもドキドキしてしまうほどの上がり症でしたが、ニュースを見たり、少しでも関心を持ったことについて調べたりすることで知識が増え、話すことが楽になったように思います。

新聞 僕もニュースをよく見るようになりました。そして、ニュースを見ていて分からなかったことは、その都度親に聞いています。以前は、学校から帰宅した後、英語の勉強を

兼ねて洋画を字幕で見っていました。今は帰宅後はまずニュースを見るようになりました。洋画を見るのはやめてしまったのではなく、夜、寝る直前の時間に見るようにしています。英語は毎日欠かさず聞いておきたいからです。

学校の勉強に対する意欲は 変化したか

河野 やる気が高まったと思います。授業中、先生の話の中に知らないことがあれば、自分で調べるようになりましたし、テストに出ないようなところも大事だと思ったりノートにメモするようになりました。いろいろな知識を吸収したいと思うようになったからだと思います。

新聞 僕もやる気が高まったと思います。ワークショップで「2020年の東京オリンピックに向けて、日本をどんな国にしたいか」をみんなと話し合ううちに、僕も社会の一員として頑張ろうという気持ちが強くなってきました。

河野 一番の気付きは、知識が大切

だということ。今までそのことに気が付かなかったのは、授業では教科書の内容さえ理解しておけばなんとかなりまし、教科書に書いていないことについて深く考える場面もなかったからです。だから、授業だけを受けていても知識の大切さを

実感できなかったでしょうし、自分が人とうまく話せないのは知識がないからだと気付くこともなかったかもしれない。でも、ワークショップで知識の大切さに気付いてからは、授業中の先生のちょっとした言葉もメモするようになりました。

ケース2

山口県・私立慶進中学・高校



「ワークショップの後、自然に机に向かう自分に驚きました」
矢儀文博さん



「みんなと話し合えたことそれ自体が、自分の自信になっています」
秋月真由子さん

ワークショップの雰囲気

矢儀 今回のワークショップには、中高一貫コースの4年生(高校1年生)に該当全員が参加しました。1泊2日の日程で、消費税増税などの社会的なテーマについてグループで話し合ったり、大学生の先輩と話をしたりしました。先輩の話はとて

考になりましたし、同じ高校生でもいろいろな意見があるのだと分かったことが新鮮でした。宿泊先のホテルでは、夜中まで友達と議論をしました。「おまえ、そんなこと考えていたのかよ!」といった驚きの連続で、視野が広がった気がします。普段ニュースを見ていて、いろいろなことを学校ですぐに口に出せるわけではあ

りません。今回、話し合いの場をつくってもらったことで、そのようなことを話しやすくなったと思います。

秋月 社会問題について話し合った時、グループの中で激論になることもあり、これまでにはない体験でした。やはり、課題を与えられ、「みんなで話し合ってください」と言われたから、話し合いやすかった気がします。そういった意味では、大人につくってもらった特殊な環境ではありましたが、話し合ってみると意外に楽しかったです。そして、友達と討論する中で、学びは大人になるために必要な知識を得るものだと思うようになりました。

ワークショップで気付いた学びの意味

秋月 知識を得るだけではなく、それを社会で役立てられるようになることが大事だと思うようになりました。それまで私は、「高校生なのだから勉強するのが当たり前」としか考えたことはありませんでした。高校の勉強は大学入試のためのもの、大学に入ってから勉強が社会に出るためのものと思っていました



山口県私立慶進中学・高校5年生
中高一貫コースに在籍。ボランティア部に所属。国立大学の薬学部を志望している。



山口県私立慶進中学・高校5年生
中高一貫コースに在籍。生徒会活動に参加。経済学系統に進学し、情報経済学などを学ぶのが目標。

秋月真由子

あきづきまゆこ

から。

矢儀 毎日授業を受けて、家に帰ってまた勉強して、それがずっとぐるぐる続いていくのが当たり前だと思っていました。目標や目的があってもなくても、大学に行くのは決まっているから勉強しなければいけないと……。だから、正直、勉強は嫌々やらされていたものでした。もちろん、やる気が起きない時もあり、そんな時はどうしたらよいか今までは分かりませんでした。でも、ワークショップに参加して、「学んだことを生かして、社会にどのような影響を与えるのかを考えると、学びの目的が少し見えてきたように感じています。

秋月 以前は、勉強していてもテレ



慶進中学・高校では、中高一貫コース5年生の生徒全員（63人）が参加。1泊2日の合宿形式で実施した。

ビに逃げたり、もういいやと寝てしまったりすることもありました。でも、勉強の意味を考えるようになって、そうしたことが少なくなりしました。今でも「大学合格」は私にとって大切な目標ですが、大学合格がゴールではなく、大学の先のことまで考えるようになりました。そして、学びとは、学校で勉強することだと思っていました。ただ、それだけでなく、いろいろな人の話を聞くことも学びなのだと思ってきました。きっと部活

動などにも学びはあるのだと思います。

ワークシヨップが 終わってからの変化

矢儀 2日間のワークシヨップの後、家に帰ると、疲れているのにもかかわらず自然に体が机に向かったのです。自分でも「なんで？」と思いました。宿題もあったのですが、嫌々というわけでもなく、すっと机に座った自分に驚きました。ワークシヨップのおかげなのかなあと思いました。

秋月 学校で勉強している時、ワークシヨップのことを思い出して、勉強を頑張ろうと思うことがよくあります。また、将来のため、自分のためという気持ちが強くなって、家庭学習が習慣化してきました。

矢儀 勉強を、「目標にたどり着くために必要な手段」だと確認できたような気がします。また、時間の使い方先輩に具体的に教えてもらったのも良かったです。同じ学校から憧れの大学に進学した先輩の話など、

で、説得力がありました。勉強に対する抵抗がなくなったおかげで、課外活動など、勉強以外のことも頑張ろうという気持ちになっています。

秋月 ワークシヨップに参加した同級生を見て感じるのには、勉強のメリハリというか、はじめがつくようになった人が多いということです。それは、5年生（高校2年生に該当）に進級したから当たり前なのかもしれませんが、自分で自分をコントロール出来るようになった人が増えたような気がします。そのような人を見ると、私も頑張らないといけないなあと思います。

今後もクラスで 自由に語り合えるか

秋月 ワークシヨップに比べると、いつものクラスの中では真面目な話はやはり少ししにくいです。自分が話した時に相手話してくれらるかどうかが心配からです。ただ、今回のワークシヨップでは、みんなが「やろう」という雰囲気になりました。きっとみんな一度経験したことで、

自分たちにも真面目な議論が出来るんだと自信を持ったと思います。

矢儀 僕は、友達と議論している時、自分が意外と話せることに気が付いて「俺って結構できるんだなあ」と少し自分に自信を持ちました。クラスのみならず「またやろう！」と声を掛けたら、きっと本気で語り合えると思います。

ワークシヨップの形式・形態にかかわらず、高校生が学びの意味や目的について、学校の仲間と語り合うことは、学びの意欲の向上に一定の効果をもたらすことが分かった。そこで、次ページから、大宮光陵高校、慶進中学・高校を始め、「高校生未来プロジェクト」のワークシヨップを校内で実施した4校の高校教師が、学びの意味や目的を語り合う場の重要性と、学校での指導の可能性について語り合う。